

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4472300484
法人名	有限会社 湯布商事
事業所名	グループホーム花の里
訪問調査日	平成21年2月20日
評価確定日	平成21年3月19日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4472300484
法人名	有限会社 湯布商事
事業所名	グループホーム花の里
所在地	由布市庄内町西361番地 (電話)097-582-1311

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年3月19日

## 【情報提供票より】 (平成 21年 2月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.1人	

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,100 円

### (4)利用者の概要 (平成21年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	2 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.3 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	おざきホームケアクリニック 小野歯科医院 仲宗根病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 地域との関係を重視し高齢化が進む中で地域の高齢者の薬を取りに行く支援などしている。
- 2 公民館での啓蒙活動、地域住民への広報誌の配布などしている。
- 3 事業所で行われる春祭りや夏祭りは地域住民参加型になっている。
- 4 住民からの野菜の差し入れなどもあり気軽に立ち寄れるように取り組んでいる。
- 5 災害時には近隣の方達の応援体制もあり24時間、外から入れる様に工夫している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回での改善項目に関しては、現状と照らし合わせ現在検討中であり、改善に関しての取り組みを前向きに検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員へは聴き取りを行い管理者が記入し、記入後職員へ確認を行い話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>参加者の都合や地域代表の方達の高齢化もあり出来ない月もあった。今後は参加者のメンバーも検討しより良い推進会議の取り組みが出来るように検討している。討議内容も報告に終わることもあるため今後の取り組みを考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>便りの発行時に合わせ近況報告など個別にしている。金銭管理についても明細や通帳のコピーを送付し適切に行っている。苦情などの取り組みに付いては、アンケートや面会時に気軽に書けるノート作成などを検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民も高齢化しており地域との関係を重視した取り組みをしている。事業所で出来る地域の方達の支援も積極的にしている。地域での昔ながらの行事にも参加したり、小学校との交流も盛んにしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、安心して楽しく暮らせる地域を目指し、お互いに持てる力の協力関係を築くため、「地域との協力、支え合い」を基にその中で安心、安全、交流を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作上げた理念であり、朝礼やミーティングで、地域との共存、交流を意識づけし、実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に数回、地域と合同で花見や紅葉狩りを楽しんでいる。施設で行う春、夏祭りには地域の方達も参加している。地域向けの広報誌や公民館での啓蒙活動、職員が地域の方達への声かけや安否確認、薬取りの代行をするなど、地域との交流を活発に行っている。小学校との交流や子供神楽などにも来てもらっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義は十分に理解し、前向きに検討、実践につなげていけるように努力している。また、職員へは聴き取りを行い記入後、見てもらい確認している。	○	意義も十分に理解しており、改善に向けて検討しているが共有までには至っていないため、今後の取り組みに期待したい。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表や家族、行政関係機関などに参加してもらっている。また、昨年より市の担当者も出席している。施設での取り組みや様子などを報告し、出席者より助言や意見を出してもらいサービスの向上に活かしている。	○	2ヶ月に1度の計画はしているが、参加者の都合などで実践できない月もある。施設側の充実していきたいとの思いが強く実践へ向けての検討をしている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の時に相談や助言を受けているが、それ以外の行き来は出来ていない。今後は便りや行事などで積極的に働きかける検討をしている。	○	広報誌などの配布も検討しており、努力している。事業所より積極的に働きかけ協働できるような取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的な便りの発行、便りの中に個別に近況報告や金銭に関しての明細、通帳のコピーなどで知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	長い付き合いの中で信頼関係も構築でき、相談や意見を出してもらっている。面会の頻度が少ない家族からの意見が引き出せていないため、年に1回のアンケートなどを検討している。	○	定期的な家族会の開催やアンケート、来訪時に自由に書けるノートの作成などを検討中であり、実践する事で運営に反映できる仕組みを検討してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動も少なく安定している。異動があっても利用者のダメージを最小限に抑えるため、併施設設との交流をし馴染みの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内での研修は積極的に参加している。経験年数などを勘案し外部研修へも参加している。また、全体会議を通して伝達研修を行い、日々の実践へ取り入れている。事業所内では業務の中で知識や技術面の指導、話し合いを行いサービスの質の向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム協議会を通じて同業者との交流や情報の共有をしているが、今後は地域の同業者との交流をを深め勉強会や交換研修などの検討をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況に応じて、お試し利用や施設内で数時間過ごしてもらい徐々に慣れてもらうように家族などと相談しながらの工夫を考えているが、最近は入退居がない状況である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の中で利用者は食堂、居間で過ごす時間が長く、職員、本人が共に協働できている。本人の思いや意向を理解し暮らしの中で支えあえる関係を作っている。料理の味付けをしてもらったり職員も学ぶ事が多くある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢化や症状の進行に伴い、本人の思いの実現も難しくなっているが、本人の趣味や希望に沿って最大限の努力をし職員間での共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が快適に過ごせるように、本人、家族、職員などが話し合いアセスメントをする事で思いや意見が反映出来るようにし介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族へは面会時に確認してもらい見直しを行っている。職員が情報を共有し話し合いながら見直しを実施している。状態の変化があった場合には現状に照らし合わせ見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の同行支援、希望に応じ自宅を見に行ったり遠出の外出、友人や近所の人に会いに行くなどの柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しかかりつけ医を決めている。地域の医師も気軽に対応してくれている。緊急時にも適切に対応しており、適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに2名の看取りを経験している。文書化もしており家族、主治医を交え終末期のあり方について話し合い、本人にとってもっとも良いと思われる方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の誇りやプライドを損ねないように日々のケアで実践している。職員にも意識づけを行っている。個人情報などの記録物なども外部から見えないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけている。「今日のかかわりシート」を作成し、日々のケアに反映できる仕組みにしている。その時の利用者の気持ちを尊重し個別の支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、調理の準備などその日の利用者の状況に合わせて職員と協働している。また、会話を楽しみながら食事ができる雰囲気づくりもしている。近隣からの野菜の差し入れもあり利用者と考えメニューに加えることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の計画はあるが、毎日入れるようにしているため、本人の状態や希望に合わせている。必要に応じて足浴、手浴、清拭も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で本人の得意とする事や能力が発揮できるように職員が共有し支援している。一人ひとりの個性や生活歴を活かした取り組みをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設内の庭も広く自由に散策できるようにしている、周辺は田畑が多く、職員と共に散歩をしたり神社に行ったり、希望があれば近くに買い物にでかけられるよに支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者がいつでも自由に行動出来るように鍵はかけず必要に応じ職員は付き添い散歩したりしている。また、災害時には近隣の応援もあるため、24時間、外から入れるようにも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力で訓練の実施、緊急連絡網の充実、地域の住民の参加もできている。また、夜間などの災害も勘案し、ベランダのフェンスや出入り口の工夫をし24時間、外部からも入れるようにしている。地域の住民も十分に理解しており、協力体制が出来ている。	○	庭が広く、井戸も掘っている。米も十分に確保されているため、災害時には炊き出しが出来るようにはしているが、想定外の災害も考えられるため、備蓄の確保も今後は検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を心がけている。水分も夏場は特に気をつけチェック表の活用なども行っている。個別に合わせ食材や形態を変え提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家の居間を再現している。窓を開ければ遠くまで風景も眺められ季節感も感じられる。適度な生活音もあり好きな場所で過ごせるように配慮している。テレビの前にはコタツもあり自由に出入りでき生活感のある工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具や思い出の写真、家族の写真などを取り入れている。持ち込みの仏壇や本人の思いに沿った居室の配慮をしている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県由布市庄内町西361番地
記入者名 (管理者)	佐々木 千代子
記入日	平成 21年 2月 4日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して楽しく暮らせる地域を目指し、お互いに持てる力を協力出来たらという思いで、「地域との協力、支え合い」をテーマにその中で安心、安全、交流を理念に掲げている。	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で考えて作り上げた理念であり、全員がその意味をよく理解しており、日々の業務にも取り込んでいる。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々にホームの状況を理解してもらい、是非介護や看護職の力を必要な時に利用していただき、又ホーム側でも地域の力を貸していただきたいということを行事の時や広報誌でも伝えるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の挨拶はもちろんのこと、野菜が出来たら持って来て下さったり、回覧板等のやり取り等でホームに顔を出して下さることが多くなり、地域に浸透してきていることを肌で感じている。又、付き合いの範囲も広がってきている。	
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々と一緒に年に数回お花見や紅葉見を計画し実践している。代表者も区長として地域参加に取り組んでいる。小学校との交流や行事にも参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフも地域の方が多いため、地域の家庭状況が比較的わかりやすい。一人暮らしや高齢者のみの家庭等把握し、行事やちょっとした催し物の時にも声かけしている。	○	家庭訪問や困っていることはないか等、聞き出し支援していきたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義は十分に理解しており、評価を受けることで前向きに検討し、実践につなげていける様努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年からは市の職員にも参加していただき、現状を知っていただくと共に行政の立場からの意見も参考にしたいと思っている。2ヶ月に1回の会議の中でホームの様子や取り組みを報告し、出席者の中からの意見を出してもらっている。	○	2ヶ月に1回のペースが委員さんの都合が合わなかったりで出来ていないため、今後は充実していきたい。又、地域の代表者も交代を考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実施していない。	○	便りや行事等で積極的にホームの様子や取り組みで知ってもらおう。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ対象者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対にあってはならないこととして、職員全員が認識している。	○	夜勤では一人にかかる負担、責任は大きい。スタッフ一人ひとりが悩みや対応のまずかったこと等、抱え込まず対応を変えていく。良いことも悪いことも共感しあうことが大切である。管理者は大変であることを理解し、声かけをする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分な説明と利用者側の以降も聞いて、双方納得の上、署名捺印をもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	困っていることや相談事等、気軽に話せる雰囲気作りをしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りの発行や便りの中にも個別に近況を知らせている。金銭管理についても明細や通帳のコピー等で知らせている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	長い付き合いの中から信頼関係も出来て、お互いに何でも相談、又は意見を出してもらっている。	○ 長くなっているが故に慣れすぎていないかも考えるところである。年に1回は、面会の頻度の少ない方のことも考えてアンケートをとってみる。来訪時自由に行けるノートを作成。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員もいろんな意見を出して、より良いホーム作りを目指している。意見や話がよく出来る雰囲気である。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本位で考え、行動している。職員も前向きで協力的である。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の動きも少なく安定している。異動があっても一度に多くの異動がないように思っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内における研修は出来るだけ受けられるようにしている。又、施設内でも、日々の業務の中で知識や技術面において指導、話し合いの中で向上につなげている。新人教育にも力を入れている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画はしたいところだが、まだ出来ていない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	チームワークが良くとれていて、スタッフ同士でストレス解消できている。又、気軽に話せる、相談出来る雰囲気作り、慰安旅行や食事会も年に数回行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力していることや、成長したことは評価して、本人にもそのことを告げている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者の話はじっくり聞くようにしており、その中で利用が可能かどうかを見極め、出来るだけ受け入れ出来るように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、困っているからこそ相談に見えているということを考え、出来るだけ利用していただけるよう努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に本人様がどのようなサービスを受けることが一番良いのかを考えた上で話をすすめている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近の入退居の動きはあまりないが、ケースによればお話し利用だとか、徐々に慣れていくような方法も考えられる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食堂がほとんど一日を過ごす場となっており、利用者、職員の動きはいつも見えている範囲で喜怒哀楽を共にし、普通の暮らしが出来ている。時には料理の味付けをしてもらったり、教えてもらうことも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の折や便り等で、状況は家族の方も良く把握できており、一緒に暮らしていなくても距離は遠くないと思っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	比較的近くにご家族が住んでいる方は面会も多いが、遠方の方に対しては面会に来られたときには、母子で旅館に一泊したり、あるいはホームで一日過ごしたりして、一緒に過ごせる時間作りをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の方であれば、実家近くの方とも会う機会を作ったり、本人の兄弟を訪ねたりもしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話すことが好きな方と、そうでない方で隣に座ってもらうことで、お互いに口を開くことにつながったり、相手の力を利用させてもらうことも多い。(歯磨きも〇〇さんと一緒に行ってください等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状は出しているが、それ以上のことはしていない。ご家族より相談や何かあれば対応は出来る状況ではある。町内の方や関係者は顔を合わせることは多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢化や症状の進行に伴い、本人の思いの実現が難しくなっている。その中において、一人ひとりが何を望んでいるのかを聞き、出来ることは叶えてあげられるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人がどのような暮らしをしてきたのかは知る必要があり、生まれたところの地域にまつわる話等を聞くことで発展性が見られる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	長い入居期間にほとんどの方がなっているため、スタッフもよく理解している。	○	元気な方もいつ転倒するか分からない事を常に頭に入れておかなければならない。又、どのような体制をとれば事故を防ぐことが出来るのか話し合っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が快適で楽しく過ごすことが出来、又持っている力を失わないように支援していく。又、その人の出来ること、出来ないこと、どのようになって欲しいか等、わかりやすく立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間は決めていても、その間に変化があれば現状に即した計画を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は大切にしており、利用者の変化や体調も含めてスタッフと共有し、介護計画にいかしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループリビング(有料老人ホーム)、デイサービス、訪問看護を持っているので、本人の状況に合わせて、どのサービスを受けることが一番良いのかを考えることは可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる慰問や小学生との交流等、外からの風も入っている。特に子供さん達は反応が良い。防災訓練も年2回行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて支援はしている。重度化、あるいは金銭面において等、ケアマネジャーと話し合い他のサービスの利用		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのスタッフも推進会議の委員をしてくれていることから、ホームの様子は良く理解してくれている。入退居に関しても相談できる関係である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談の上、病気によってかかりつけ医がある。特に地域の主治医(ほとんどの方の主治医)は、気軽に対応して下さり、利用者の健康管理に努めている。緊急時にも適切な対応が出来る。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症になっても誇りやプライドは捨てられないことをよく理解している。トイレ誘導に誘う時等は気を遣うところである。	○ 名前を呼ぶ時に「おじいちゃん」「おばあちゃん」は絶対やめようを徹底する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの状態を職員は充分理解しており、適切な支援が出来ている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてかわり、利用者本意の生活は最優先と思っているか、その他の業務も大切である。限られたスタッフの中で利用者のペースに合わせた動きが出来るよう決めている。	○ 決めていても転倒事故があった。いつ誰が転んでもおかしくない状態の方達ばかり。油断から起きたことと思う。更にカンファレンスを持ち、どうしたら全利用者を安全から守られるのかを考えていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容院が月2回訪問してくれる。その時に少し長めだとか短めだとか言えない方にとってはスタッフが似合う髪型を代弁している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方が少なくなっているが、少しでも一緒にすることで家庭的な雰囲気を大切にしている。食事中も会話しながら、又声かけで食べていただくよう心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	何が食べたいのか等の嗜好を聞いたり、昔懐かしいおやつを作ったりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄状態を知り、気持ちよく過ごせる支援をしている。排泄パターンを記録にてスタッフが共有する。排泄時のかかわり、昼と夜との対応の変化。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の取り決めはあるが、利用者の状態や都合により、臨機応変にしている。必要に応じて、足浴、手浴、清拭もしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	暗くて不安が大きい時は明るくしていたり、TVの声があったりすると安心したりする方もいる。就前の過ごし方も大切。午睡もベッドで横になる方や、ソファでくつろぎウトウトする方等、様々なくつろぎ方、その人に合った方法をとっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理が好きだった方や、縫い物が得意だった方等、今出来ることをなるべくしていただくよう支援している。洗濯物を干す前にきれいに「しわ」を伸ばす方、洗濯物をたたんでくれる等		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	頻度は少ないが、出来る利用者さんには近くの店で好きな物を買って、レジで支払いをしてもらったりしている。又、施設内で模擬店をしたりして、お金を扱う機会を作っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出(買い物)出来る方も少ないが、年末に洋服や下着等、一緒に行って買い揃えた。車から降りなくてもドライブして外の空気や景色を眺めたり、自宅に1~2時間過ごしたりする。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者3~4人と一緒に自宅へ帰り、お茶を飲んだりして過ごすこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で元気な声を家族に聞いてもらったりはしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族のようにあたたかい気持ちで迎えている。長くなっているだけに面会の方々とも家族のように話が出来る。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって利用者さんが受ける弊害についてよく理解している。身体拘束をしなくて良いようにスタッフの動きやかかわり方で対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は常にオープンにしている。外に出たい方がいれば一緒に行くなど、止めたりはせず本人の意思を大事にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して利用者さんの安全を第一に考え目の届くように心がけている。利用者さんにスタッフが背を向けて何かをすることのないようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品や洗剤等の管理、夜は鍵をかけている。ハサミや針等の管理。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	絶対に起こしてはならないという意識の元、そのような危険性が少しでも感じられる時にカンファレンス等で未然に防ぐ対策をとっている。「起きてからでは遅い」を徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	予測される急変や、突発的な事故が起きた時にはどのように対応し、又どのような動きをするかということは常に話している。	○	応急手当や救急法も去年は出来なかったもので、繰り返し学習していきたいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署立ち入りの元訓練を行っており、繰り返し行うことで慌てず対応出来るように訓練している。地域の人々にもお願いしていたり、訓練時にも協力してもらっている。	○	まだまだ不十分なところが多いため、さらに地域の人との話し合いの中で協力体制を考えていかなければと思っています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に合わせて家族と話し合い、どのように対応していくか等決めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護職員を中心に介護職員にも徹底し早期に異常に気付くこと、バイタルチェックも含めて一人ひとりを良く知る、見るということを大切にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主な疾患やこのような症状でこの内服をしている等説明し、副作用にも気をつけるように日々の中で行えている。	○	正確に把握しているか、さらに勉強会を開き一人ひとりの疾患について再チェックしていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者(認知症)にとっての便秘は対応が難しいが、いかに苦痛なくして快適に排泄が出来るかを考えている。水分や繊維のある食物、運動等働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアに力を入れている。義歯の洗浄や自歯もなるべく長く持たせるよう十分な歯磨きをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事や水分量は非常に気を配っているところである。一人ひとりの状態に合わせて健康管理や楽しみの部分も大切にしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や取り決めがあり、インフルエンザの予防接種は全利用者、職員が受けている。又市からの情報にも目を配り、職員全体で予防策や対応策を徹底している。協力医療機関とも連絡を取り合っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いや調理器具等の消毒。調理場の衛生面には気を配っている。特に消費期限や生ものの魚類を出すときは新鮮であると同時に時期的な事も考慮している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	古くから地域にある民家のため、誰でも気軽に立ち寄れる普通の家であり、近代的なグループホームとは違うところに安心感を感じるのではと思っている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いながらも台所が食堂から見えたり、窓を開ければ外の様子も伺え、普通の家の居間と言った感じである。冬場にはTVの前にコタツを出して団欒を楽しんでいる。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの窓側にテーブルを置いたり、廊下にもソファを置いて、ちょっと腰を下ろしたり出来るようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や最近の家族写真等、部屋にかけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日数回の換気や室温の調節、又利用者の衣服の調節には気を配っている。冬期は乾燥しないよう加湿器の購入で湿度管理をしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自分の力で動けることが大切である。そのためには段差の解消や、すぐに何かに掴まることの出来る環境、又職員の見配りや気配りに強化している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の力をよく理解しており、その人に合った働きかけを行っている。機能的には出来そうなことも理解が出来ないために、混乱を招いたケースもあり、その人全体を良く見る、知ることの大切さを思った。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	豊かな自然環境の中、四季折々の風景が感じられる。広い運動場には藤棚があり、春には藤の花が咲き乱れ、春まつりが盛大に行われる。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ケガや事故のないように日々のケアにおいて力を入れている。

又、健康管理にも力をいれ、出来るだけ環境を変えず最後まで住み慣れたホームで過ごしていただきたい。

終末ケアにおいても看護職員と協力医療機関の連携で、家族が望むならば受けたいと思っているし、実際に数例の経験もある。